沖縄県護国神社 社報 第30号

うむい

令和5年度 皇紀2683年

題字:宮里洋子(沖縄県護国神社前事務局長)

社報「うむい」について

沖縄の言葉で「想い、願望、考え、所存」のことを「ウムィー」といい、戦争で亡くなっていった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の想いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。

全国神道青年協議会慰霊祭(P5 関連記事あり)

御挨拶 代表役員(会長)比嘉 良雄

天皇皇后両陛下沖縄行幸啓

沖縄祖国復帰50周年記念植樹

昭和47年 復帰報告祭文

特集 沖縄県護国神社の歩み

第7回「第一鳥居の再建」

宮司 加治 順人

遺骨収容に思う

開発前調査の必要性

権禰宜 松元孝太

https://www.okinawa-gokoku.jp

HP Twitter

創建百年記念 本殿新築について

代表役員（会長）　比嘉良雄

沖縄県護国神社の創建は昭和十一年であるが昭和二十年に灰燼に帰した。現在の本殿は昭和四十年に再建されたものである。再建当時の会長は具志堅宗精氏。戦時中の那覇警察署長である。「生き延びたことを恥とし、亡くなった先輩、同僚、部下、そして県民の慰霊が残された者のつとめだ」と考えている人だった。破格の造営資金を自ら拠出、他へも願ったのはそのためである。それから六十余年、風雨にさらされ痛みが生じてきたので平成二十九年の理事会で令和十九年の創建百年のメイン記念事業として社殿を全面的に改新築することになった。そして平成三十年の理事会で「社殿造営委員会」を発足させた。委員会は、近くの宮古島、原爆被災県の広島、長崎、九州の中核県福岡、対極にある北海道の護国神社を訪問し教えを乞うた。懇切丁寧な説明と過去、現在、将来についての知恵を頂いてきた。そして理事会に報告を行った。形、色、素材、工作、建築、資金、着工、すべてこれからである。「慰霊・奉安の誠」をいかに具現化するか、その中心となる「やかた」本殿である。社殿造営委員会のみにまかすことなく関係者、崇敬者各位の協力を切に願うものである。

① 北海道護國神社
② 福岡縣護國神社
③ 長崎縣護國神社
④ 宮古神社
⑤ 廣島護國神社

天皇皇后両陛下 沖縄行幸啓

平和の礎を御覧になる天皇皇后両陛下

天皇皇后両陛下には「第三十七回国民文化祭及び第二十二回全国障害者芸術・文化祭」に御臨席併せて地方事情御視察のため、十月二十二日から二十三日にかけて沖縄県に行幸啓遊ばされました。御宿泊を伴う国内への行幸啓は新型コロナウイルス感染症の蔓延以降では初めての事でございました。両陛下におかれましては、那覇空港に到着ののち直ぐに糸満市摩文仁の平和祈念堂へ向かわれ、続いて平和記念公園内にある国立戦没者墓苑で御供花、この時にお立合いになられたご遺族の方に親しくお声をかけられたとの事でございます。その後、平和の礎や平和記念資料館を御視察され、行在所に向かわれました。宜野湾市にあります行在所となったホテルでは両陛下が皇太子・皇太子妃時代から交流のあった「豆記者」と数年ぶりに御再会され、当時をお懐かしみ遊ばされました。又五月十五日に行われました「沖縄本土復帰五十周年記念式典」に出席した関係者らと御懇談されその労をねぎらわれると共に、式典で県民代表として挨拶をされた対馬丸記念館館長高良政勝氏（対馬丸生存者、一家十一人中九人を対馬丸で失う）に天皇陛下は「残念ですね」、皇后陛下は「本当に痛ましいこと」と寄り添われる言葉をかけられました。翌日は「第三十七回国民文化祭及び第二十二回全国障害者芸術・文化祭」の開会式に御臨席され「おことば」を述べられました。閉会後「沖縄音楽フェスティバル」を天覧あらせられたのち豊見城市にあります、「おきなわ工芸の杜」を御視察され芸術文化祭の「造形ワークショップ」にて障がいを持つ人が健常者と共に作成している壁画を御覧になられました。

当社におきましては宮内庁より幣饌料の伝達式があるとの連絡がありましたので、二十二日夕刻に宮司が行在所に赴き、畏くも天皇皇后両陛下より下賜せられました幣饌料を別所侍従長より拝戴いたしました。下賜せられました幣饌料は翌二十三日に第六十四回秋季例大祭にあわせ幣饌料御下賜奉告祭を斎行し御神前に奉りました。その後、十一月十三日に宮司が宮中に参内し御礼の記帳をいたしまして、一連の諸行事を滞りなく取り収める事が出来ました。

思えば、誰よりも強く沖縄への行幸をお望みになられた昭和天皇は御製「思はざる病となりぬ沖縄をたづねて果さむつとめありしを」の通り、沖縄への行幸は叶いませんでした。しかしながらそのお志は上皇陛下に受け継がれ、上皇陛下は御在位中実に十一度も上皇后陛下と共に沖縄に行幸啓なされています。そしてこの度の今上陛下、皇后陛下の行幸啓―。三年ぶりのご宿泊を伴う国内行幸啓だった事、又当社秋季例大祭に近しい日に幣饌料を賜りました事は洵に有難く御祭神はもとより、ご遺族、戦友、崇敬者をはじめ百四十万沖縄県民全ての喜ぶところでございます。

幣饌料御下賜奉告祭

沖縄祖国復帰五十周年記念祭

令和四年は沖縄が米軍統治下から祖国日本に復帰して五十年の節目の年でありました。昭和四十六年六月十七日に、日米間で結ばれた「沖縄返還協定」が、昭和四十七年五月十五日午前零時をもって発効し、先の大戦以来、二十七年を経て晴れて復帰を果たすこととなります。これを記念し当社では五月十五日に沖縄祖国復帰記念祭を斎行いたしました。記念祭当日は既に梅雨入りをしており奇しくも五十年前の復帰当日と同じく、五月雨が降る中の祭典となりましたが、当社副会長をはじめ総代、崇敬者様のほかに御来賓として靖國神社宮司山口建史様、全國護國神社會会長塩野谷恒也様、熊野速玉大社宮司上野顯様をお招きいたしまして厳粛に執り行うことが出来ました。祭典終了後、熊野速玉大社よりご奉納を頂きました「梛の木」の植樹並びに記念碑の除幕式を行いました。さて「梛の木」は熊野速玉大社の御神木でございまして凪の音と同じ事から、航海のお守りとされることもあるそうです。沖縄という大きな船の航路が幾久しくも平安で揺蕩うことのないよう心よりご祈念申し上げます。

梛の木の植樹

記念碑

戦歿者御英霊に対し復帰報告祭文

会長挨拶の中で具志堅宗精氏の名前があがりましたが、今回書庫整理中に昭和四十七年の祖国復帰前日に執り行われました「祖国復帰記奉告祭」にて具志堅宗精氏（オリオンビール創業者）が奏上されました祭文を発見いたしました。後世に伝えるべき名文であると心得ますので謹んでここに掲載いたします。

時　昭和四十七年五月十四日二十万の御英霊神鎮まります茲沖縄県護国神社の御前に額き本土復帰記念奉告祭を執行するに当り委員長具志堅宗精謹んで御霊の御前に復帰記念奉告祭文を奉り慰霊の誠を献げます。沖縄県民多年の祈願であった沖縄の祖国復帰が去る昭和四十四年十月佐藤・ニクソン会談の結果復帰が正式に決定され此の決定により、いよいよ余すところ十二時間後には敗戦国民より晴れて二等国民として祖国に復帰するのであります。思えば長い多年の二十七ヶ年の歳月は流れましたが諸霊が命をかけて守り抜こうとされた郷土此の沖縄が今祖国日本に帰ることが出来ることになりました。顧みますれば今を去る昭和二十年四月平和な守禮之邦沖縄に才二次大戦の非業な戦火がおよび、軍民あわせて二十万の尊い人命が失われたことは私たち県民が忘れようとして忘れることの出来ない悲惨事でありました。爾来ここ沖縄は祖国から分離されて長い苦難と試練の道を歩んできたのでありますが、この度日米両国の友好と信頼を基調とする平和裡の交渉によって施政権が史上まれとも言ふべき返還が実現される運びとなりました事は、偏に百万県民の祖国復帰を願う熱意と御英霊の尊い御加護の賜であると深く感謝いたす次才であります。

このうえは日本政府はもとより我々県民は和衷協力、一致団結して新しい沖縄県の大事業にとりくみ、民生福祉の向上、産業経済の振興を通して豊かな明るい沖縄県造りに邁進する決意と覚悟を新たにするものであります。何卒御霊よ永久に此の社に神鎮まりまして諸霊の御加護の基に世界の恒久平和、日本の弥栄と県民が豊かで幸福なる生活をいとなむ事が出来ますよう、そして縁深きご遺族の上に限りない御多幸を祈念し奉告祭文と致します。

原文ママ

昭和四十七年五月十四日
沖縄県護国神社
祖国復帰祈念奉告祭
委員長　具志堅宗精

第六十四回春季例大祭

四月二十三日　第六十四回春季例大祭が斎行されました。コロナ禍のため昨年同様規模縮小となり役員・総代のみの参列となりました。祭典に先立ちまして日頃、当社に篤い崇敬心をお寄せ頂いております、大阪府にございます株式会社コーニッシュ様より三俵分のお米の奉納がございました。また、祭典後に「あゝ特攻」勇士之像慰霊祭が執り行われました。

米俵三俵の奉納

第六十四回秋季例大祭並びに天皇皇后両陛下幣饌料御下賜奉告祭

十月に入りますと社会情勢もだいぶ落ち着きを見せましたので、多くのご遺族・崇敬者の皆様のご参列を賜り祭典を執り行う事が出来ました。久方ぶりの大祭日の賑わいに御祭神もさぞお喜びの事とご拝察申し上げます。又、祭典においてはMOA山月光輪花様よりの献華を賜ったほか、祭典後には岡出とよ子様（三重県）より、特攻兵士の辞世の句三十四首のご奉納がございました。

尚、沖縄祖国復帰五十年記念に新調されたのぼりを大祭に併わせ掲揚いたしました。

辞世の句の奉納

のぼり奉納者ご芳名

（掲揚名・順不同・敬称略）

比嘉良雄・㈱うるま印刷・㈲沖縄式典プランニング・㈱シンテック・㈱仲本工業・三協電気工事㈱・㈱前田産業・㈱京和土建・沖縄県出店業事業協同組合・㈱屋部土建・たけや旗染店・ヤシマ工業㈱・極東警備センター㈱・㈲丸徳ガス産業・久保田照子チャームスクール・光文堂コミュニケーションズ㈱・㈱沖縄銀行・フォートプラザ・琉球ゴーレックス㈱・オリオンビール㈱・㈶沖縄県遺族連合会・㈳沖縄海友会・街クリーン㈱・㈱ビジネスランド・㈱タカミ・㈱コーニッシュ・㈱ASAKA・セイコー保険事務所・㈱正広コーポレーション・㈲西原農園・㈱国際ビル産業・㈱昌樹鉄筋工業・大晋建設㈱・ホテルパークスタジアム那覇・㈲設計集団閃・㈱まつけん設計・㈱丸忠・㈱琉球銀行・ファミリークリニック小禄・トーマ産業㈱・㈱桃原農園・八潮重設運輸㈱・学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院

新調されたのぼり

沖縄戦全戦歿者慰霊祭

沖縄戦において第三十二軍司令牛島満大将、同軍参謀長長勇中将が自刃され組織的抵抗が終結したとされる六月二十三日に沖縄戦全戦歿者慰霊祭を斎行いたしました。昨年は限られた方のみの参列となりましたが、本年はコロナ禍も落ち着きを見せましたので、参列者の方も徐々に戻りつつありました。

終戦記念日みたま祭り

大東亜戦争終結ノ証書が下されてより七十七年の歳月がたちました。当社では英霊にこたえる会沖縄県本部共催、また、沖縄県遺族連合会、日本会議沖縄県本部の後援により終戦記念日みたま祭りが斎行されました。八月は変異株が流行し、当県が「BA5対策強化地域」に指定されたため、役員・総代のみの参列となりました。

特集

沖縄県護国神社は昭和11年の創建から数え、今年で87年目を迎えます。特集「沖縄県護国神社の歩み」と題し、11回にわたって神社の創建から現在までを紹介していきます。

沖縄県護国神社の歩み
第七回　第一鳥居の再建

宮司　加治順人

現在国道沿い立つ護国神社第一鳥居は、奥武山公園のランドマークとして、行きかう人や公園利用者に親しまれています。今回は第一鳥居が歩んできた歴史を振り返り、戦前戦後、そして現在の姿について書き記したいと思います。

沖縄県護国神社第一鳥居は、当時離島であった奥武山を繋ぐ明治橋（当時は北明治橋と南明治橋の二本であった）の間の参道入り口に昭和十八年に建立された。その後、戦時中の必勝を祈願する人や、軍人等が武運長久を祈願する際にまず一礼し、神前へと進む第一歩として大勢の人を迎え、そして送っていった。

大正5年の地図

戦局が厳しくなった昭和十九年十月十日の空襲では、市街地に甚大な被害が出たが、鳥居は奇跡的に無事であった。

また建立に際し、後の靖國神社宮司となる陸軍大臣鈴木孝雄より揮毫を賜わり、昭和十九年十二月に鳥居の傍南側に社號碑が建立された。

昭和20年戦後すぐの鳥居

そして昭和二十年四月に米軍が沖縄本島に上陸したのち、鳥居と社號碑は銃弾にさらされながらも奇跡的にその姿を留め、戦後も那覇市の象徴として大勢の人達が一礼し、鳥居の前を通って行った。

その後、鳥居前の道路が拡張され、もともと南側にあった社號碑は北側へ移設された。

昭和四十年に神社社殿が再建し、戦後第一回の秋季例大祭を斎行した際は、戦没者遺族や戦友、ゆかりのある人たちがまず第一鳥居を通り、その復興を心から喜んだといわれている。

現在の社號碑

社號碑裏

戦後米軍のトラックが通過している

昭和四十七年五月十五日長年県民の願いだった沖縄の本土復帰が果たされ、沖縄へ訪れる観光客も年々増加し、「リゾート地オキナワ」として定着していく中、国道沿いの第一鳥居には沖縄戦の傷跡である弾の後がいくつも残されており、那覇空港から市内へ進む観光客にとって「激戦地沖縄」の姿を残す大切な所となっていった。

その鳥居も長年の風雨、海沿いの潮風により腐食が進み、調査の結果一部鉄筋の露出が検出されたため、昭和六十二年七月十一日の役員会にて、補修ではなくひと廻り大きくしての建替えを行う事となった。

早速、鳥居北側柱部分の土地所有者である琉球製糖㈱（現：㈱りゅうとう）に使用許可を申請し、建替えの許可をいただいた。

しかし所轄官庁である南部国道事務所に建替許可申請をしたが、鳥居の一部が国道側に掛かる、との理由で七月十四日に不許可との連絡があり、工事は暗礁に乗り上げた。

一方、事前に各方面へと奉賛金を募っていたことから、県内の御遺族を始め、会社団体、崇敬者等から続々と奉賛金が振り込まれており、早急な解決が必要とされていた。

そこで事業責任者である護国神社事務局長が、日本道路公団仲山順一監事に向け電話にて粘り強く状況を説明し、交渉した結果、七月十六日夕刻、南部国道事務所狩野所長より許可との連絡があった。

工事着工の目途がつき、更に奉賛金を募ることとなり、奉納協力依頼書を、県内外会社、団体、個人宛一次から四次募集まで延べ千六百七十七通送付した。最終的に沖縄県遺族連合会より四百万円の奉納を筆頭に㈱国場組、㈱儀間本店（現：ジーマ㈱）からそれぞれ百万円、オリオンビール㈱、大扇会からそれぞれ五十万円、国場幸太郎氏より三十万のほか、慰霊団体、県内外の会社団体、そして遺族、崇敬者の方々から合計千七百十万余が寄せられた。

昭和六十二年十月七日、那覇市より鳥居再建工事確認通知書が届き、いよいよ着工の運びとなった。同月三十一日鳥居前で起工式を斎行。十一月二日夜間に既存の鳥居解体工事が開始され、三日間で既存の鳥居の解体が完工した。

続いて十一月六日より鳥居設置工事に入り、まず南側柱の基礎工事から行われ、十八日に北側柱基礎工事、続いて三十日に貫部分取付、十二月三日に笠木部分取付、七日に額づか取付、十二日より総仕上げを行い、二十二日にすべての工事が終了した。

翌日二十三日神社役員、高額奉納者、各関係者等約六十名を招いての竣工式並びにくぐり初の儀、続いて拝殿にて竣工奉告祭を斎行し、そのまま感謝状贈呈式を行った。

その後、令和二年十二月に終戦七十五周年記念事業として、琉球ゴールレックス㈱の施工により、表面補修工事を施し、現在新しくなった第一鳥居は、国道58号線の終点と国道329号線の始点として、また那覇マラソンのスタート地点（現在は別に移動）として親しまれ、今も大勢の人たちを見守っている。

社務日誌抄

令和4年4月～令和5年3月

4月

9日　柏木白光様　自由参拝
10日　空の神兵顕彰会　会長　奥本康大様　正式参拝
22日　**第64回春季例大祭宵宮祭**
23日　**第64回春季例大祭**
23日　**「あゝ特攻」勇士之像慰霊祭**
29日　**昭和祭**

5月

3日　麗泉書道教室　正式参拝
7日　龍華会　自由参拝
9日　オキナワインターナショナルスクール　自由参拝
9日　熊野本宮大社
9日　宮司　九鬼家隆様　正式参拝
9日　熊野速玉大社
9日　宮司　上野顕様　正式参拝
9日　大分縣神社廳大分支部　正式参拝
9日　生松天神社
10日　宮司　宮崎千秋様　正式参拝
10日　長崎縣神社廳　正式参拝
10日　大分県神道青年会　正式参拝
10日　佐賀縣神社廳　正式参拝
10日　鹿児島縣護國神社
10日　宮司　野村浩史様　正式参拝
10日　鹿児島縣神社廳
10日　参事　森川弘樹様　正式参拝
11日　大分の塔慰霊祭
11日　前原権禰宜助勤奉仕
11日　（株）カルティベイト　正式参拝
15日　**沖縄祖国復帰50周年記念祭及び記念植樹**
29日　華道池坊沖縄支部　正式参拝
30日　滋賀県遺族会　正式参拝
30日　令和4年度　第1回責任役員会

6月

9日　公益財団法人特攻隊戦没者慰霊顕彰会　正式参拝
17日　しづたまの碑慰霊祭　宮司奉仕
19日　海上挺身隊慰霊祭
19日　禰宜・上田巫女奉仕
19日　島守・防人に感謝する集い
19日　殉国沖縄学徒顕彰七十七年祭
19日　宮司・関口権禰宜奉仕
22日　東京都遺族連合会有志の会
22日　正式参拝
22日　勇魂の碑慰霊祭　宮司奉仕
23日　**沖縄戦全戦没者慰霊祭**
23日　白梅慰霊の会
23日　代表　服部千里様　正式参拝
23日　戦没者慰霊の会
25日　櫻街道　正式参拝
25日　阿含宗沖縄道場
26日　沖縄戦没者慰霊祭
26日　「沖縄の平和を考える会実行委員会」正式参拝
30日　**夏越の厄除け祈願祭　大祓式**

7月

3日　社殿造営委員会
5日　宮古島視察調査　～4日
7日　愛知縣神社廳　自由参拝
19日　令和四年度第二次マリアナ調査派遣（グアム）JYMA日本青年遺骨収集団として宮司参加　～18日
19日　社殿造営委員会　福岡・長崎県視察調査　～20日
19日　令和四年度第二次パラオ調査派遣（アンガウル）JYMA日本青年遺骨収集団として関口権禰宜参加　～8月1日
27日　英霊にこたえる会沖縄県本部総会
27日　松坂市議会議員　森遥香様　正式参拝
29日　沖縄県赤十字血液センターより感謝状贈呈

8月

13日　NPO法人　琉球GAIA　清掃奉仕
15日　**終戦記念日みたま祭り**
15日　霊友会第八支部　増永友嗣様　正式参拝
20日　茶道裏千家淡交会沖縄支部　支部長　島袋洋様　正式参拝
21日　茶道裏千家淡交会沖縄支部　正式参拝
22日　関口権禰宜　初任神職研修参加（福岡）～25日
28日　社殿造営委員会　広島県視察調査　～29日

9月

9日　全日本学生会議慰霊祭
13日　宮司・松元権禰宜奉仕
13日　NPO法人　琉球GAIA　清掃奉仕
13日　全國護國神社會臨時総会　宮司出席
17日　**天皇皇后両陛下英吉利（イギリス）行幸啓奉告祭**
17日　首都圏学生文化会議　正式参拝
21日　**天皇皇后両陛下英吉利（イギリス）還幸啓奉告祭**
21日　第六回9・21世界平和の祈り　揮毫奉納
23日　**秋季皇霊祭遥拝式**
27日　神宮大麻頒布始祭　参列
29日　三重県菰野町　町長　柴田孝之様　正式参拝

10月

4日　糸満市立三和中学校　自由参拝
16日　修養団捧誠会神石四八年祭　宮司・松元権禰宜奉仕
17日　**神嘗祭遥拝式**
17日　波上宮奉賛会秋大祭　宮司参列
17日　令和4年度第2回責任役員会
17日　第15回総代会
22日　**幣饌料伝達式**
22日　**第64回秋季例大祭宵宮祭**
22日　**第64回春季例大祭並びに天皇皇后両陛下幣饌料御下賜奉告祭**
23日
24日　社殿造営委員会　北海道視察調査　～26日
27日　**神道青年全国協議会　沖縄戦全戦没者慰霊祭**
27日　**宮司・前原権禰宜奉仕**
27日　南薩観光株式会社　正式参拝
27日　東京都遺族連合会　自由参拝
28日　**神道青年全国協議会　遺骨収集　松元・関口権禰宜参加**
29日　「流れる雲よ」大阪実行委員会　正式参拝
30日　華道家元池坊沖縄支部　正式参拝

沖縄県護国神社 元責任役員（副会長） 一橋勝巳氏ご逝去

去る8月20日、沖縄県護国神社元責任役員（副会長）一橋勝巳氏がご逝去されました。享年91歳。

同氏は祖国復帰前より当神社の正月準備や祭典行事の運営に携われ、平成2年よりは責任役員（副会長）に就任いただき神社の護持、隆昌に多大なるご尽力、ご指導を賜りました。

ここに謹んで追悼の意を表します。

神道青年全国協議会 沖縄戦全戦歿者慰霊祭

十月二十七日に全国神道青年協議会（小林慶直会長）主催の沖縄戦全戦歿者慰霊祭が当社にて斎行されました。当日は北は北海道から南は沖縄まで五十四名の神職が奉仕を行い、新垣義夫沖縄県神社庁副庁長、全国氏子青年協議会鈴木登代秀会長、日下修一神青協顧問をはじめ約七十人の神社関係者や一般の方が参列され盛大に執り行われました。当社からは宮司が斎主として、前原万岐権禰宜が舞姫として祭典奉仕いたしました。

全国神道青年協議会は昭和三十三年から沖縄の本土復帰運動に取り組み、復帰の年である昭和四十七年には復帰記念として全国の名石を持ち寄った「波照間の碑」を建立したのをはじめ国旗掲揚塔や「聖寿奉祝の碑」を建設し、周年ごとに慰霊祭を斎行するなど沖縄に対し深い関心を寄せられていました。今年は沖縄本土復帰五十年の節目の年にあたり、「現在の平和で豊かな日本を築くために礎となられた英霊に対し、心からの慰霊の誠を捧げる」という目的で慰霊祭を斎行されました。当社には沖縄戦で散華された本土出身の方もお祀りされていますので、ご縁のある地域の方々が慰霊祭のご奉仕を行ったことは、御祭神もさぞお喜びの事とご拝察申し上げます。

11月

3日　**明治祭遥拝式**
4日　前田高地慰霊祭　宮司奉仕
5日　山口県遺族連盟　正式参拝
8日　「沖縄甲斐の塔」慰霊巡拝団　正式参拝
8日　佐賀県遺族参拝団　正式参拝
8日　静岡県遺族会　正式参拝
9日　岡山県遺族連盟　正式参拝
9日　長崎県戦没者慰霊奉賛会　正式参拝
10日　令和4年度長崎県戦没者追悼式　宮司参列
10日　長崎県連合遺族会　正式参拝
10日　岐阜県遺族会　正式参拝
11日　青森県遺族連合会　正式参拝
11日　石川県遺族連合会　正式参拝
12日　住吉神社例大祭　宮司奉仕
13日　天皇皇后両陛下幣饌料　御下賜御礼記帳の為　宮司宮内庁へ参内
13日　広島県遺族会　正式参拝
13日　南薩観光株式会社　正式参拝
15日　新潟の塔奉賛会　正式参拝
15日　群馬県遺族の会　正式参拝
16日　群馬の塔慰霊祭　宮司参列
17日　栃木縣護國神社　自由参拝
17日　奈良県遺族会　正式参拝
17日　北海道遺族連合会　正式参拝
19日　茨城県遺族連合会　正式参拝
20日　高知県遺族会　正式参拝
21日　土佐の塔慰霊祭　宮司・上田巫女奉仕
23日　**新嘗祭**
24日　埼玉県遺族連合会（埼玉の塔管理委員会）　正式参拝
25日　神奈川県遺族会　正式参拝
30日　兵庫県遺族連合会　正式参拝
30日　福島県遺族会　正式参拝

12月

1日　ふくしまの塔慰霊祭　宮司・関口権禰宜奉仕
2日　九州地区護國神社宮司会　宮司出席　～3日まで
7日　神道政治連盟京都府本部　自由参拝
26日　**神符守札清祓い並びに助勤者安全祈願祭**
31日　**大祓式・除夜祭**

1月

1日　**歳旦祭**

正月風景

3日　**元始祭**
11日　岩手県遺族連合会　正式参拝
13日　上間小学校　自由参拝
17日　**神符守札焼納祭**
21日　航空自衛隊那覇基地太鼓部「鼓風」奉納演舞
27日　熊本県遺族連合会　正式参拝

2月

1日　長野県遺族会　正式参拝
1日　大阪府遺族連合会　自由参拝
3日　**節分祭**
4日　武田勝彦沖縄県護国神社語り部会　正式参拝
6日　栃木縣神社廳　正式参拝
6日　神道政治連盟福井県本部　正式参拝
7日　沖縄県神道青年会　禊参加
8日　JYMA日本青年遺骨収集団正式参拝
8日　日本和裁士会沖縄県支部　針祭
10日　霊友会第八支部　正式参拝
11日　**紀元祭**
12日　沖縄京都の塔奉賛会　正式参拝
12日　愛媛県神道青年会遺骨収集
13日　関口権禰宜同行
17日　愛媛県神道青年会　自由参拝
17日　**祈年祭**
17日　垣花小学校　自由参拝
20日　福岡縣護國神社宮司　田村豊彦様　正式参拝
20日　第35回全國護國神社會研修会　関口権禰宜参加　～20日
21日　あさなぎ関西支部支部長　久野潤様　正式参拝
21日　神道青年九州地区協議会　正式参拝
22日　神道政治連盟大阪府本部　正式参拝
23日　**天長祭**
24日　神宮大麻頒布終了祭　参列
24日　SYDボランティア友の会　正式参拝
25日　SYDボランティア友の会　遺骨収集　～27日

3月

3日　全國護國神社會定例総会　宮司出席
5日　茶道裏千家淡交会沖縄支部　正式参拝
6日　山形縣神社廳正式参拝
9日　第10回社殿造営委員会
19日　表千家同門会沖縄県支部　正式参拝
21日　**春季皇霊祭遥拝式**
25日　沖縄慰霊会　正式参拝

正月献灯

奉納者ご芳名

（掲揚名・順不同・敬称略）

イー・フレス㈱・大晋建設㈱・㈱トランク・㈲フォートプランサービス・㈱ルート66・㈱沖縄ボイラエンジニアリング・㈲新長堂土木・㈱サン・エージェンシー・三協電気工事㈱・㈱東洋設備・㈱沖縄計装・英霊にこたえる会沖縄県本部・ファミリークリニック小禄・㈱コーニッシュ代表取締役今村聖三・㈱ツハ設備・さかえ労務管理事務所・㈱三宝社・三栄工業㈱・ヤシマ工業㈱・ヤシマ工業㈱安全衛生協力会・㈱ビジネスランド渕辺美紀・㈱おきさん・豊見城地区交通安全協会・沖縄リビック㈱・㈱めいわ総建代表取締役山川和明・㈱鏡原組・㈲浜冷機工業・㈱ネオックスワン・㈱カルティベイト・㈱真宣'組・㈱国和システム・㈱京和土建・㈱トラスティック代表取締役渡慶次勝・田場　聡・前原良一　まち子・㈱神路社・㈱アニヤデンキ・アピカ・㈱久保田商工・ハチマルぎょうざ・グリーン産商㈱・オキコ㈱・㈲沖縄式典プランニング・㈱古波蔵組・㈱豊都建設・㈱大成エンジニア・SKG㈱・㈱シンコウ・㈱福岡奉製・㈲沖セレモニー社・㈱新建宅・㈲恩納アルミ工業・㈱ASAKA・沖縄ガス㈱・㈱剛設備社・沖縄トヨタ自動車・㈱桜電機工業・㈱阿部・MROJapan㈱・㈲設計集団　閃・沖縄受験ゼミナール 遠山基樹・沖縄受験ゼミナール・沖縄受験ゼミナール中村千代美・㈱企画T㈲大松・光文堂コミュニケーションズ㈱・㈲西紀・㈱匠宮・拓南グループ拓伸会・㈱緑・㈱エーデルワイス沖縄・白梅慰霊の会・アスク沖縄㈱・弁護士法人サルヴェイション法律事務所・福井康夫・㈱正広コーポレーション・西本賢司・㈱コモドハウス・大鏡建設㈱・㈱新建・㈲琉球セレモニー・米元建設工業㈱・㈲新八土建・東壱住建㈱・久米建設㈱・沖縄シャーリング㈱・㈱北盛建設㈱・プログレス・㈱国際ビル産業・沖縄三菱電機販売㈱・國和設備工業㈱・シンパホールディングス㈱・沖縄サンゴ㈱・㈱松村電機製作所 沖縄営業所・㈱松村電機製作所上原康幸・㈱御菓子御殿・㈱御菓子御殿 クリエーション・㈱御菓子御殿ホールディングス・㈱沖城ポンプ・前田産業ホテルズ・㈲ムーププランニング・与那原町遺族会・㈱オカノ・嘉手納町遺族会・監事　宮城篤正・沖縄県赤十字血液センター・(一社) 沖縄海友会・南洋土建㈱・㈱大輝・㈲エーツーサイン・㈱クリーンプランWill・北谷町まちだクリニック・自主憲法制定沖縄県民会議・㈲丸徳ガス産業・恩納村遺族会・産経新聞社那覇支局・㈱シンテック・(一社) 那覇青年会議所・日琉国際言語学院・㈱サンクリエイト・㈱かねよし・㈲西原農園・オリオンビール㈱・責任役員　嘉手苅啓・㈱昌樹鉄筋工業・L.D.K㈱・表千家同門会沖縄県支部・ユートピアハウジング㈱・孝松電設・㈲照電社代表取締役仲間博明・㈲たけ事務・(一社) 茶道裏千家淡交会沖縄支部・恩納村遺族会・㈱上雅装工・代表役員　比嘉良雄・責任役員照屋苗子・高良幸栄　高良幸司・高良勇介　高良陽平・オーシロ電化　オーシロンゴー園・八重山遺族連合会・JYMA日本青年遺骨収集団・㈱南西産業・㈱外間重機・㈱琉球銀行・㈲拓商・㈱ゼーゲン・カンパニー・オロク商会㈱・たけや旗染店・小禄地域振興会・㈱ビーンズラボ・本部町遺族会・建築工房MILIER・富士電機㈱沖縄支社・㈱うるま印刷・民謡で今日拝なびらRBCiラジオ・那覇市連合遺族会 那覇遺族会会長瑞慶山良祐・玉城流翔節瑞祥和の会 会主瑞慶山和子・社会福祉法人大竹福祉会・㈱リウデン・KYシステム㈱・お香の香音・㈱三眞運輸・㈲沖縄ガス圧接・㈱フィールド・ワン・㈱外為どっとコム・大嶺英希・大阪・吹田市野崎佐季・大阪・吹田市ライトホーム 代表者　上地学・保崎芳秋　恭子・㈱りゅうとう・㈱金城組・㈲ビーンズ広告社・てぃーだ社労士事務所・トーマ産業㈱・國幸興發㈱・auショップ壷川・㈱サンライト・㈱三晴・㈱リユウロード・㈱ヒロハルファーム・沖縄花卸販売㈲・宅配専門　クリーニング・エール・第一総業㈱・新日本工芸㈱・㈱田畑工業・(同) サノハタ・㈲新垣産業・道場・久保田照子チャームスクール・首里遺族会会長 照屋苗子・監事 嶋田玲子・フォートプラザ・修養団捧誠会沖縄県支部・丸山康太郎・丸山康太郎・RicKy［からあげ専門店］・㈲わかまつどう製菓・㈱マルゼン・(公社) 沖縄県隊友会・佐和田恵君子・NPO法人琉球GAIA・小禄オートサービス・沖縄菱電ビルシステム㈱・地酒とまごころ料理 つくも・㈱屋部土建・㈱桃原農園・神里瓦工事・ダダアル (同)・沖縄県遺族連合会・(社) 沖縄県戦没者慰霊協会・総代代表 大城竹明・読谷村遺族会・政愛鳳・沖縄和顔・食彩ダイニング夢適・㈲蒼竜社・㈱サンクス沖縄・八潮重設運輸㈱・㈲匠建・㈱和シャッター沖縄・㈲久田緑化造園・街クリーン㈱・街クリーン建設㈱・司法書士法人ロアック・㈲光陽ビルサービス・㈲沖縄機工リース・㈱Maehara・閃光社 代表者 長田益博・琴崎八幡宮・㈱しげ組・㈱G-next・㈱健伸組・小笠原流煎茶道 沖縄総支部・㈱ジョイント沖縄・㈱円満企画・㈲エヌケイプランニング・税理士法人 リモート・富士パートナー㈱・「空の神兵」顕彰会・極東警備センター㈱・未来工業・嘉互業・嘉手納粉桜・㈱セキグチ・㈱名城・㈲丸和産業・琉栄工業・㈱九電工沖縄支店・琉球ゴーレックス㈱・㈱久米島の久米仙・㈱おきなわフィナンシャルグループ・㈱沖縄銀行・沖縄県煎茶道協会・㈱ホテルグランビュー・㈱富士開発・与那嶺組㈱・新装美・㈱丸忠・楊　少文　立津美奈子・照屋秀毅・横浜市 ㈲関口商店・沖縄動画編集屋・ロボコン・飯島正也・医療法人玉福 空と海とクリニック・日本会議沖縄県本部・沖縄タイムス東小禄販売店・山城開発㈱・那覇東急REIホテル・㈱ホクガン・㈱西建設・小笠原流煎茶道 日賀ハツ・㈱active・アラカキ建設・沖縄鶏卵販売㈱・㈱茂水産・まぐろ大吉・たろう歯科医院・乾　太郎・乾　礼名・乾　夢子・乾　蘭子・ABC沖縄放送宣伝社・㈱日和設計・㈱琉球経済開発・東村振興開発㈱・真和志遺族会・前原産業・沖縄県傷痍軍人会・㈱まつけん設計・ホテルパークスタジアム那覇・㈱沖縄日立・やっぱりステーキ・豊見城市議会議員宜保安孝・㈱レンタリース沖縄・池宮城聡

奉納者御芳名

（社務日誌掲載以外・順不同・敬称略）

令和四年四月～令和五年三月

永代鼎霊命日祭新規申込者

愛知県名古屋市　知念　松春
石川県能美市　倉元　玲子
沖縄県那覇市　城間　達江

永代鼎霊命日祭御供

沖縄県宜野湾市　當山　盛市
神奈川県鎌倉市　関　政子
三重県志摩市　杉木　茂樹
沖縄県那覇市　新崎　英美
北海道札幌市　櫻井　朋子
北海道札幌市　櫻田スミ子
岐阜県岐阜市　江崎　朋美
北海道札幌市　絹川　美智子
和歌山県和歌山市　村山　真喜子
北海道札幌市　長野　洋子
北海道函館市　伊藤　和子
熊本県山鹿市　岡部　典子
福井県坂井市　鮏　和夫
福井県坂井市　鮏　幸子
石川県小松市　南出　修宏
岩手県花巻市　瀬川　豊子
群馬県東吾妻町　関崎　勝治
大阪府寝屋川市　細田　拓彦
福島県阿南市　田中　昭二
徳島県阿南市　幸田　純子
北海道札幌市　北村　孝子
沖縄県石垣市　瀬名波　長宏
滋賀県近江氏　松浦　友一
佐賀県杵島郡　平川　忠雄
愛知県豊橋市　小野　礼子
愛知県豊橋市　牧　香里
茨城県取手市　大塚　幸男
宮城県富谷市　菅原　義則
熊本県熊本市　松尾　誠
大阪府池田市　島村　美哉子
愛知県一宮市　後藤　修士
北海道北斗市　田島　義勝
千葉県市川市　松永　修巳
北海道札幌市　沼田　富美枝
三重県伊勢市　村井　洋子
群馬県甘楽郡　中村　公美
滋賀県甲賀市　宿谷　延子
愛知県海部郡　気田　一郎
沖縄県那覇市　与那覇　朝博
沖縄県那覇市　新垣　正
北海道雨竜郡　木村　寿文
佐賀県小城市　藤島　由紀子
群馬県高崎市　江積　栄一
〃　早智子
〃　節子
〃　櫻井　勝
京都府八幡市　齊藤　亮司
愛知県稲沢市　下田　方子
神奈川県逗子市　一戸　弥生
沖縄県宜野湾市　當山　盛市
神奈川県小田原市　中津川　尚一
北海道北斗市　田島　義史
千葉県八街市　黒木　陽一郎
愛知県刈谷市　丹村　要二
群馬県桐生市　大西　昭範
埼玉県比企郡　福岡　英男
北海道札幌市　浅野　祥子
北海道足寄郡　相坂　和枝
三重県津市　大竹口　重幸
沖縄県那覇市　林　和子
東京都北区　与儀　シゲ
広島県大竹市　渡辺　三男
平川　秀
埼玉県比企郡　福岡　英男
宮城県富谷市　菅原　義則
愛知県一宮市　後藤　修士
京都府八幡市　齋藤　亮司
埼玉県桶川市　臼田　智子

永代鼎霊命日祭御供 令和3年度追加分

玉串料（伍千円以上）

(株) コーニッシュ様
熊野那智大社　宮司　男成洋三
白山神社　宮司　小林　慶直
春日神社　宮司　宮本　隆之
京都府京都市　坂田　優子
福岡県北九州市　茶屋本廣喜
波上宮　宮司　大山　晋吾
東京都八王子市　富田喜代志
東京都清瀬市　岩崎　悟
空の神兵顕彰会　会長　奥本康大
愛知県護国神社　宮司　高羽伸浩
神前神社　宮司　渡邊東典
埼玉県児玉郡　政裕美子
東京都目黒区　葛西徹憲
沖縄県護国神社　前局長　宮里洋子
三重県伊勢市　佐藤昭典
三重県伊勢市　岩山靖季
愛知県名古屋市　佐々木威
京都市左京区　石井美保
修養団捧誠会　総裁　出居徳久
修養団捧誠会　木島正孝
修養団捧誠会　沖縄県支部
濃飛護国神社　石田明敏
佐賀県護国神社　宮司　徳久俊彦
静岡県神社廳
静岡県護国神社　宮司　芦原久雄
岐阜護国神社　宮司　宇都宮幸嗣
石川県鳳珠郡　吉田源兵衛
新潟県護国神社　宮司　齋藤伸雄
山口県下関市　畑島　敦
埼玉県桶川市　臼田智子
岩手県護国神社　宮司代務者　新山敏彦
長野県神社廳
沖縄県石垣市　三木　巌
大前神社宮司　柳田　耕太
福井県護国神社　宮司　宮川貴文
太宰府天満宮　宮司　西高辻信宏
普明会教団
大阪護国神社　宮司　藤江正鎮
廣島護国神社　宮司　尚　満喜
三重県伊勢市
月山神社・出羽神社・湯殿山神社　宮司　宮野直生
金鑽神社　宮司　金鑽俊樹
熊野速玉大社　宮司　上野　顕
奈良県奈良市　大和けい
牧口八幡社　宮司　小野日隆
小山　仁

賛助会奉納金

琉鵬会
沖縄ツーリスト（株）
オキコ（株）
第一食糧（株）
大晋建設（株）
たけや旗染店

御供物

神饌　（株）オリオンビール
正面幕 樽酒　ジーマ（株）
正面幕 樽酒　（株）ジーマック
米俵三俵　（株）コーニッシュ
泡盛　久米島の久米仙
泡盛　翁長　剛
鶏卵　沖縄鶏卵販売（株）
生花　蘭フラワー
生け花　MOA山月 光輪花
記録写真　フォートプラザ
国旗　たけや旗染店
日本酒　北海道護国神社名誉宮司
日本酒　熊野速玉大社宮司　塩野谷恒也
日本酒　上野　顕
日本酒　龍華会　田村君江
日本酒　畑島　敦
日本酒　宮國千奈
青梅　熊野本宮大社宮司　九鬼家隆
茶　坂　博志
米　金高義幸
米　宮城敦子
米　木村　保
米・果物　丹羽秀樹
米・新嘗祭御神酒　（有）関口商店
果物　和徳稲荷神社社司　山辺悠一
果物　三浦日出子
果物　台湾保安堂

寄贈

除菌用アルコール他　(株)リバティシュシュ
椰の木　熊野速玉大社
ファーストシューズ
エルカミーノ　蓑島將紀
テント一張　沖縄県護国神社前局長
宮里洋子
絵画　大野健一
DVD　太田中将顕彰会　相馬康夫
「靖國の桜」　岡藤賢次
時計・蘭　(株) シンテック
冊子・CD　岡出とよ子
「英霊にささぐ」言葉CD　日本戦略研究フォーラム常務理事　長野俊郎
琉球ガラス　友利　龍
広兵団関係資料等　津嘉山輝一

寄贈書籍

「沖縄の島守を語り継ぐ群像」田村洋三
「ちからのかぎりに」　護得久和子
「平成御大典記念御社殿造営誌」
「御創建百三十年記念事業誌」
廣島護国神社
「英霊の言乃葉第十一輯」靖國神社
「日本人は眞秀の民」荒川春代　他4冊
「光の絆」　明翔
「靖國神社の緑の隊長」　半藤一利
「尖閣諸島」　尖閣諸島を守る会
「新訂増補 靖國神社略年史」
靖國神社社務所

社殿造営奉賛金

英霊にこたえる会沖縄県本部

沖縄県護国神社
うむい
令和5年
第30号

遺骨収容に思う 開発前調査の必要性

権禰宜 松元孝太

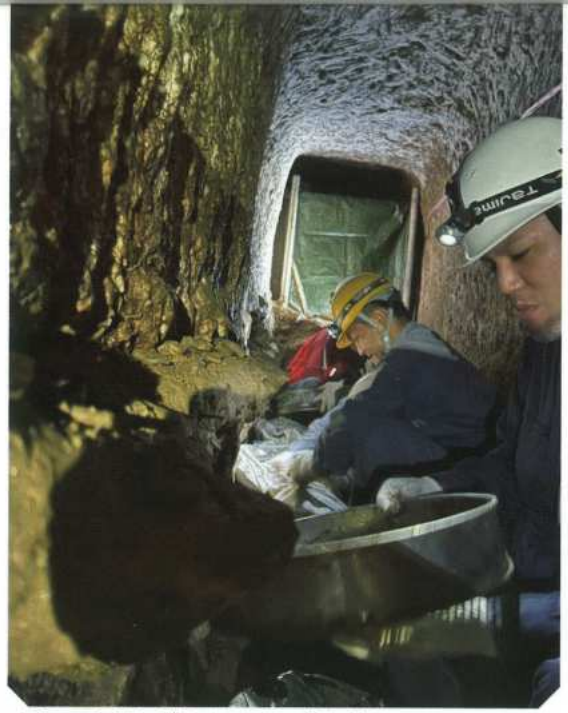
去る令和四年十月二十八日、豊見城市の旧海軍司令部壕にて神道青年全国協議会の本土復帰五十周年記念事業として、同会員約四十名と共にNPO法人空援隊主催の「遺骨発掘収容活動」に参加しました。

今回の収容活動は、同壕の非公開区域を調査し、未収骨の御遺骨や御遺品を収容することが目的であります。同区域については、過去に複数回調査・遺骨収容活動が行われたと聞いていた為、壕内に残された御遺品、御遺骨は少ないものと予想しておりました。しかし、いざ始めてみると各所から御遺品、さらには御遺骨も見つかり、自身の安易な認識を恥じました。また我々のような素人仕事の常で、壕内の堆積土を掘るつもりが壕の底部を超えて掘り進めたり、石灰岩を人骨と誤認したり等々、空援隊の皆様の手を煩わせてしまう場面も多々ありましたが、同隊の皆様によるご指導のお陰で怪我無く一柱の御遺骨と多数の御遺品をお迎えし、収容活動を終えることが出来ました。今般、同隊基幹要員の方々が行う収容活動も間近にて拝見しましたが、その姿勢はまさに真剣そのものであり、知識、技術等全ての面において我々素人との差は歴然でありました。

我が護国神社の御祭神は、沖縄戦で身罷られた方々を中心とする御英霊でありますが、収容活動で実際に御遺骨や御遺品に触れていると、我が御祭神が、かつて私と同じく肉体を持ち、人生を懸命に歩んでおられた方々であるという事実を再認識させられます。同時に唯の調査、収容ではなく、空援隊の皆様のような専門家集団による詳細なる調査、収容を行う必要性も強く感じました。今般の活動に際し私共参加者が安全に活動出来るよう、諸準備にあたられた空援隊の皆様、支援者の方々に感謝申し上げます。

旧海軍司令部壕での収容活動の帰路、戦前の「小禄村」現在の那覇市小禄地域を通りました。同地域は戦時中、旧海軍小禄飛行場や旧海軍司令部壕をめぐる激しい戦闘、所謂「小禄の戦い」が行われた地であると共に、私の生まれ故郷でもあります。私が幼少期を過ごした昭和五十年代後半は、嘗てこの地が農村地帯であったことを思わせる緑豊かな風景、戦中に飛行場や司令部を防御すべく村内各所に配置された陣地や壕の跡が数多く存在しておりましたが、平成元年より行われた土地区画整理事業により往時を感じさせる地形の多くは消失し、戦争遺構もその殆どは埋め戻され、嘗て激戦が行われた事を物語る場所は数える程になりました。また陣地跡、壕跡の中には、私の知る限り詳細な調査、遺骨収容が行われないまま埋められた場所もあります。幼少期の私が野遊び中に小銃弾や御遺骨を発見した原野も、児童公園や集合住宅地の建ち並ぶ区域に変わっておりましたが、後日公文書館等にて確認するも、この地で詳細な調査、収容活動が行われた記録はついぞ発見するに至りませんでした。

現在、県内では宅地の供給不足に伴い、これまで手付かずだった古戦場においても開発行為が盛んに行われておりますが、未調査のまま宅地化されてしまえば、その地に眠る御遺骨を収容する事は極めて困難になります。これから開発される地域については、詳細な調査のうえで開発が行われることを望むものであります。


ひとつの骨も見逃さないよう、篩を使う

一般公開エリアのすぐ近くで収骨作業を行う

【発行所】沖縄県護国神社社務所
〒900-0026 沖縄県那覇市奥武山町44番地
電話（098）857-2798

令和5年4月発行　発行　沖縄県護国神社
https://www.okinawa-gokoku.jp/